

国内公募
共同研究とそれを組織する客員教員の公募要項
(2013年度開始)

国際日本文化研究センターでは、日本文化の広く深い研究を推進するために、さまざまな専門分野における優れた研究成果を基礎として、それらを有機的に結びつける「共同研究」方式を採っています。

本センターは、1994年度から共同研究の課題を広く公募し、優秀な研究課題の企画者とその共同研究の代表者として、客員教員に迎えております。

1. 共同研究代表者の役割

研究代表者は、本センターの客員教員に就任し、共同研究の推進に当たり、参加者の選定、研究計画の立案、研究会の主宰、研究成果のとりまとめ等を行います。

なお、共同研究終了後は、1年以内に研究報告をとりまとめ、その原稿を提出し、出版しなければなりません。

2. 共同研究の構成

共同研究には、本センターの教員及び日本国内に在住する研究者並びに海外共同研究員が参加します。また、本センターの専任教員が、共同研究の代表者を補佐します。

3. 共同研究会の開催場所

本センター内とします。

4. 応募資格

共同研究の代表者となる者の応募資格は、2013年4月1日現在、満65歳以下で、大学その他の研究機関の研究者、又は、これと同等以上の研究能力があると所長が認めた者とします。

5. 募集人数

2名以内

6. 在任期間

2013年4月から2014年3月までの原則1年とします。

(研究会運営の打合せ及び研究報告取りまとめの打合せを行う場合は在任期間中にお願ひします。)

7. 申請方法等

(1) 申請手続

申請は、所定の様式による申請書を、所属長(部局長)による応募の承認を経た後、提出してください。

(申請書の作成に当たっては、記入要領参照)

応募の際には、共同研究の参加者を推薦してください。

その中には、必ず本センター専任教員を1名以上含めてください。

申請の前に当該専任教員へ連絡してください。（別添「研究テーマ一覧」参照）

(2) 応募書類及び申請期限

応募書類は、①申請書一式②申請課題に関係する主要業績（論文・著書）3編以内を、2011年12月12日（月）必着にて、送付してください。

提出のあった応募書類は返却いたしません。

(3) 提出先

住 所：〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

機関名：大学共同利用機関法人人間文化研究機構

国際日本文化研究センター 管理部研究協力課研究支援係

(4) 問い合わせ先

国際日本文化研究センター 管理部研究協力課研究支援係

T E L (075)335-2044（直通）

F A X (075)335-2092

E mail kyoudou@nichibun.ac.jp

なお、申請書はホームページ

(<http://www.nichibun.ac.jp/number/index.html>)

よりダウンロードできます。

8. 採否

採否は、本センターの共同研究委員会の審査を経て所長が決定し、2012年3月末までにその結果を所長から申請者及び所属長あて通知します。

9. 待遇

(1) 研究代表者は、客員教員として、研究費（研究旅費を含む）のほか、共同研究会出席に要する旅費が支給されます。（共同研究の参加者には、研究会出席に要する旅費が支給されます。）

(2) 共同研究実施に当たり、本センターの図書室、コンピュータ等の施設・設備を利用することができます。

2013 年度開始国際日本文化研究センター
共同研究計画申請書記入要領

※ 印の欄は記入しないでください。

〈受付〉〈課題番号〉

1. 申請者欄には、申請者の氏名等必要事項をご記入ください。
2. 研究課題欄には、実施期間が原則 1 年であることを考慮して、共同研究の研究課題をご記入ください。
3. 研究計画は、この研究課題の目的、方法、内容について別紙 1 にご記入ください。
4. 研究を補佐する本センター教員名欄は、本センターの専任教員のうち研究代表者が希望する者をご記入ください。
5. 共同研究者欄には、想定される参加者の氏名、所属、職名をご記入ください。なお、研究課題が採択された場合、共同研究者には、本センターの共同研究員を委嘱します。
6. 開催回数欄は、研究期間内の開催予定回数をご記入ください。
現在、本センターの共同研究会の多くは、隔月に 1 回程度行われています。
7. 研究期間欄は、2013 年 4 月 1 日から原則 1 年とします。
8. 承諾書欄に、共同研究申請者（研究代表者）の所属する所属機関の長の承諾を得てください。なお、機関に所属しておられない方は、承諾書欄の記入は不要です。
9. 研究業績は、申請課題に関係する論文、著書等申請書類に添付した主要業績を含む 3 点についてその概要を別紙 2 にご記入ください。著書については、総ページ数を記入してください。また、雑誌、論文については掲載ページ（PP.○-○）を明記してください。

共同研究 —— 研究域・研究軸

研究域・研究軸は、個々の共同研究を日本文化研究総体のなかに位置づけるための座標のような働きをするものとして考案された本センター独特な枠組みです。

第1研究域から第5研究域まで、5つの研究域があり、研究軸は、各研究域ごとに3つずつ、合計15のものが設定されています。各共同研究は、それぞれこの5域、15軸の中に各々の場をしめることとなるわけです。

○第1研究域：動態研究

日本文化を、諸外国の状況からある程度独立した研究単位として考え、それを時系列的に研究します。

研究軸としては、〈現代〉、〈伝統〉、〈基層〉の3つが設定されています。

○第2研究域：構造研究

日本文化を第1域同様、独立的にとらえ、時系列的な変化から相対的に独立しており比較的固有の性格を保ち続けている部分の構造を研究します。

研究軸としては、〈自然〉、〈人間〉、〈社会〉の3つが設定されています。

○第3研究域：文化比較

日本文化を他の文化単位との関連において、グローバルにとらえ、その構造を比較検討します。

研究軸としては、〈生活〉、〈制度〉、〈思想〉の3つが設定されています。

○第4研究域：文化関係

日本文化を第3域同様、グローバルな視点でとらえ、その時系列的な変化を研究します。

研究軸としては、古代以来日本と文化交渉がある地域をさす〈旧交圏Ⅰ〉、大航海時代以来日本と文化交渉ができた地域をさす〈旧交圏Ⅱ〉、近代以降になって日本と文化交渉をするようになった地域をさす〈新交圏〉の3つが設定されています。

○第5研究域：文化情報

日本文化研究と日本認識に関するこれまでの蓄積を研究します。大量の研究文献などを整理し分析する、いわば研究の研究を行う研究域です。研究協力活動とも、もちろん密接な関連を持つこととなります。

研究軸としては、欧米諸国などにおける日本研究を対象とする〈外国における日本研究Ⅰ〉、アジア諸国などにおける日本研究を対象とする〈外国における日本研究Ⅱ〉、国内の日本研究を対象とする〈日本における日本研究〉の3つが設定されています。

2011年度共同研究一覧

研究域	研究軸	研究課題	研究代表者
第1研究域 動態研究	現代	文明と身体 (～2012年3月まで)	教授 牛村 圭
	伝統	仏教からみた前近代と近代 (～2012年3月まで)	教授 末木 文美士
	基層	怪異・妖怪文化の伝統と創造 —研究のさらなる飛躍に向けて— (～2013年3月まで)	教授 小松 和彦
第2研究域 構造研究	自然	生命文明の時代を創造する (～2012年3月まで)	教授 安田 喜憲
	人間	夢と表象—メディア・歴史・文化 (～2014年3月まで)	教授 荒木 浩
	社会	デジタル環境が創成する古典画像資料研究の新時代 (～2012年6月まで)	外国人研究員 楊 曉捷
第3研究域 文化比較	生活	仕掛けと概念：空間と時間の日仏比較建築論 (～2012年5月まで)	外国人研究員 Philippe BONNIN
	制度	近代日本における指導者像と指導者論 (～2013年3月まで)	教授 戸部 良一
		徳川社会と日本の近代化— 17～19世紀における日本の文化状況と国際環境— (～2014年3月まで)	教授 筈谷 和比古
	思想	「東洋美学・東洋的思惟」を問う：自己認識の危機と将来への課題 (～2012年3月まで)	教授 稲賀 繁美
第4研究域 文化関係	旧交圏Ⅰ	帝国と高等教育—東アジアの文脈 (～2012年3月まで)	客員教授 酒井 哲哉
	旧交圏Ⅱ	文学の中の宗教と民間伝承の融合：宮沢賢治の世界観の再検討 (～2011年5月まで)	外国人研究員 Pullattu Abraham GEORGE
	新交圏	「心身／身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み— (～2014年3月まで)	教授 伊東 貴之
第5研究域 文化情報	外国における 日本研究Ⅰ	東アジア近現代における知的交流—概念編成を中心に (～2013年3月まで)	教授 鈴木 貞美
	外国における 日本研究Ⅱ	新大陸の日系移民の歴史と文化 (～2012年3月まで)	教授 細川 周平
	日本における 日本研究	日記の総合的研究 (～2013年3月まで)	教授 倉本 一宏

研 究 テ ー マ ー 覧

職	氏名	専門分野	研究テーマ
教授	小松和彦※1 (副所長併任)	文化人類学、民俗学、口承文芸論	東アジアにおける民俗宗教の比較研究
	井上章一 (研究調整主幹併任)	建築史、意匠論	風俗、意匠など、目に見えるものをつうじた近代日本文化史の再構成
	稲賀繁美 (研究調整主幹併任)	比較文学比較文化、文化交流史	藝術におけるモダニズムの成立過程、全球化の覇権と地域的抵抗
	早川 間 多※3 (研究調整主幹併任)	美術史学、文化史学	与謝蕪村に関する研究、浮世絵春画に関する研究
	荒木 浩	日本文学	日本古典文学の表現と作品生成をめぐる総合的研究・日本文学研究の国際的展開とその方法
	伊東 貴之	中国思想史、日中比較文学・思想	中国近世思想史(宋～清)一特に清代政治思想史および清代初頭～中葉期の政治観・人間観・倫理観などを中心として、日中および東アジアの文化交渉史
	牛村 圭	比較文学、比較文化論、文明論	近現代日本の文明観の変遷
	宇野 隆夫※3	考古社会史、考古学GIS、文化財科学	ユーラシアの古代都市とシルクロード交流の研究
	笠谷 和比古※3	歴史学(日本近世史、武家社会論)	近世の国制と天皇制、武士道の思想と行動形態
	倉本 一 宏	歴史学(日本古代政治史、古記録学、平安貴族の精神世界、天皇論)	平安貴族の精神世界、古記録学
	白幡 洋三郎※2	比較文化史	屋外レクリエーションの比較文化的研究
	末木 文美士※3	仏教学、日本思想史、日本宗教史	日本思想史の中の仏教
	鈴木 貞美※1	古典評価史をあわせた日本近現代文芸史の再構築	文化諸概念・諸ジャンルの編成史
	戸部 良一※2	日本近現代史	外務省革新派、戦前日本の政軍関係
	パトリシア・フィスター	日本美術史	尼門跡と尼僧の美術
	ジョン・グリーン	日本の近世/近代史	近世/近代神社史、皇室、外交、勲章
	細川 周平	音楽学、日系ブラジル史	明治・大正の音楽
	山田 奨治	情報学、文化交流史	文化的な情報の生成・伝達・変容の研究
准教授	磯前 順一	宗教・歴史研究	贖罪と救済
	榎本 渉	日本中世史	入宗・入元僧を中心とした日中文化交流、東シナ海における海商
	郭 南燕	日本近代文学、環境文化	志賀直哉、遠藤周作、小笠原の環境
	佐野 真由子	外交史、文化交流史、文化政策	徳川外交の連続性
	フレデリック・クレインス	日欧交渉史、科学史	17世紀ヨーロッパに普及した日本情報
	瀧井 一博	国制史、比較法史	明治立憲体制の知識社会史のかつ国際関係史的研究
	松田 利彦	歴史学	植民地朝鮮における官僚機構、戦時期日本の汎アジア主義と朝鮮
	光田 和伸	日本古典文学、比較文学、比較文化	日本人の死生観
	マルクス・リュッターマン	中・近世の日本社会史、文化史、古文書学	古代の外來書札受容及び中・近世の書札札
	森 洋久	情報工学	自律分散型空間共有アーキテクチャGLOBALBASEの開発
	劉 建輝	日中比較文学、比較文化	近代日中文化交流史

※1…2013年3月退任予定です。

※2…2014年3月退任予定です。

※3…2015年3月退任予定です。